

平成 29 年度第 2 回幕別町総合教育会議議事録

1 開催日時 平成 30 年 1 月 19 日（金）午後 1 時 00 分開会 午後 2 時 30 分まで

2 開催場所 幕別町教育委員会会議室

3 出席委員（6 名）

| | |
|-------------|-------|
| 幕別町長 | 飯田 晴義 |
| 幕別町教育委員会教育長 | 田村 修一 |
| 教育委員 | 小尾 一彦 |
| 教育委員 | 瀧本 洋次 |
| 教育委員 | 國安 環 |
| 教育委員 | 東 みどり |

4 欠席委員 無

5 日程

1) 開会

2) 挨拶

3) 意見交換

・教育委員会主要懸案事項及び平成 30 年度予算について

6 事務局出席者

| | |
|---------------|-------|
| 幕別町企画総務部長 | 山岸 伸雄 |
| 〃 政策推進課長 | 山端 広和 |
| 〃 政策推進課副主幹 | 鯨岡 健 |
| 幕別町教育委員会教育部長 | 岡田 直之 |
| 〃 学校教育課長 | 高橋 修二 |
| 〃 生涯学習課長 | 石野 郁也 |
| 〃 学校給食センター所長 | 宮田 哲 |
| 〃 図書館館長 | 武田 健吾 |
| 〃 学校教育課総務係長 | 中山 仁 |
| 〃 学校教育課学校教育係長 | 岡田 篤 |

7 会議の概要

山端課長

それでは皆さんそろいましたので、ただ今から平成 29 年度第 2 回幕別町総合教育会議を開催いたします。はじめに飯田町長から挨拶をお願いいたします。

飯田町長

こんにちは、皆さんお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。昨年を振り返りますと本町の基幹産業が素晴らしい結果でありました。年明け随分穏やかな気候で推移しておりまた。この間、15 日に糠内の老人会の新年会がありまして、去年と今年の気温の比較をしてみました。去年は 15 日の内、10 日がマイナス 20 度を下回り、最高気温も 0 度でした。ところが今年もマイナス 20 度を下回ったのは 4 日、5 日で、プラスの日が 4 日、5 日あり、非常に暖かい年であると思うところでありまして、今年も去年に負け

ないぐらいの出来秋を迎えられればと思います。今、一年の締め括りの仕事と更には来年度の予算編成の仕事が重複して進められているところであり、教育関係で言いますと、これから重要な時期を迎えるのは高校再編に向けての教育課程の編成、いかに魅力を持った教育課程を編成できるかといった課題を抱えています。6月には募集要領が決定されますのであまり時間のない中で魅力あるものにしていかなければならないと思っております。委員さん方の忌憚のない意見をお願いいたします。今日は、「主要懸案事項と30年度の予算について」が議題となっておりますので、このことにつきましても皆さんの忌憚ない意見交換ができればと思います。どうかよろしく願いいたします。

山端課長

それではここから先の進行につきましては、議長となります飯田町長をお願いしたいと思います。

飯田町長

それでは早速ですけども、主要懸案と予算もありますので最初に主要懸案事項について一括して説明をさせていただきたいと思っております。順にお願いします。

高橋課長

それでは私から主要懸案事項3点のうち「小中一貫教育の推進」と「幕別町内高等学校の再編統合」につきまして、説明させていただきます。資料の1ページをご覧ください。最初に「小中一貫教育の推進について」ですが、「平成29年度の経過と今後の予定」について説明させていただきます。表の左側から平成29年度、平成30年度、平成31年度の予定を記載しております。平成29年度におきましては、5月に推進会議を開催いたしまして、小中一貫教育の推進に係わる基本構想を決定しております。6月には、町教育委員会において、保護者への「小中一貫教育のアンケート」を実施しております。7月には、推進会議に各学校から出席いただいている推進委員の方々と先進地視察研修を行っております。視察研修先は、当別町、北広島市、沼田町、三笠町、中標津町、白糠町と道央、道北、道東の3地区で研修しております。9月の推進会議では、平成30年度から実施予定であるモデル校の設置の決定をいただいております。また、10月には、百年ホールにおきまして京都産業大学の西川教授をお迎え、小中一貫教育の講演会を学校教職員、保護者を対象に開催したところでございます。更には12月の推進会議では、基本構想の決定を受けまして、今後の小中一貫教育を推進していく上での手引きということで、「推進の手引き」について会議に提案させていただいております。これにつきましては、平成30年度の5月をめぐりに推進協議会の中で決定してまいりたいと考えています。次に、平成30年度の予定といたしましては、4月から幕別中学校エリア、札幌東中学校エリアでモデル校を設置いたしまして、小中一貫の学校実践をスタートさせて参りたいと思っております。その一年間の実践を通して小中一貫教育の導入にあたっての課題や改善点等を検証しながら、平成31年度の実施を進めてまいりたいと思っております。平成30年度の7月には、昨年と同様に道内の先進地の視察を行う予定であります。また、10月には引き続き講演会の開催も予定しております。平成31年度には、札幌中学校エリア、糠内中学校エリア、忠類中学校エリアの3エリアを加えて、全中学校エリアで小中一貫教育がスタートする予定で現在のところ考えております。次に2ページ以降7ページまででございますけれども、各中学校区エリアにおける推進状況の資料でございます。

2ページをご覧ください。特徴的な事項を紹介させていただきますと幕別町中学校エリアにおきましては、既に来年度のモデル校設置に向けた取り組みとしてエリア内の組織体制が確立してございます。その中で、現在取り組んでいる活動内容としては、児童会・生徒会合同での挨拶運動や中学3年生が小学校を訪問し、6年生に中学校の魅力や紹介を行っております。今後計画している取り組み内容では、中学校の1日体験や9年間を見据えた教育課程の検討等も予定しているところであります。次に3ページをご覧ください。糠内中学校エリアの状況でございます。糠内中学校エリアにつきましてもエリアにおいての会議体制、組織体制が確立しております。4ページになりますが、現在取り組んでいる活動内容としては、糠内小学校、明倫小学校の児童が糠内中学校の部活動の体験入部を行っております。また、例年実施の小中学校の合同での運動会、中学校の英語の先生による乗り入れ授業を実施しています。今後計画している取り組み内容では、31年度のエリア実践に向けた取り組みについて引き続き合同会議や各部会等での検討を行う予定でございます。次に5ページをご覧ください。札内中学校エリアの状況でございます。札内中学校エリアにつきましては、平成31年度に実践スタートいたしますが現在組織体制の確立まで至っておりません。また、記載にありますように中学校から各学校へ英語の乗り入れ授業も行われており、中学校で小学生の英語検定が行われ、10月に小学生2名が札内中学校で英語検定を受検している状況にあります。札内南小学校と札内中学校のそれぞれのお父さん達が加入しておりますPTAの「おやじの会」では、お互いに交流会や懇親会などを開催している状況にあります。次に6ページをご覧ください。札内東中学校エリアの状況でございます。このエリアにつきましては4月からのモデル校としてスタートすることから組織体制が確立されております。現在取り組んでいる活動では、学習指導、生徒指導、地域学習として3部会での取り組みが記載されております。札内東中学校には小中一貫教育の推進の加配で英語教員1名が配置をされており、今年度、白人小学校 札内北小学校へ乗り入れ授業を実施しております。今後においては4月のモデル校に向けた準備として、「めざす子ども像」の検討も行っております。課題点として教育委員会に小中一貫教育を専門に扱う部署の設置、モデルエリア校への予算、加配等の要望があったところでございます。次に7ページをご覧ください。忠類中学校のエリアでございます。現在進めております活動内容は、小学生6年生の中学校への登校を10月と11月に実施をしたところであります。アンケートの結果考察にありますように中学校への体験入学を体験したくないと言う児童が1名おりましたが、この2回の体験で「とても良かった」に変わり気持ちの上で大きな変容があったところであります。また、すべての子どもたちが非常に喜んでおり、小中一貫がこのようなことで繋がっていくものと考えています。

次に、資料2番目8ページをご覧ください。「幕別町内高等学校の再編統合について」説明をいたします。最初に新設高校の教育課程のイメージですが資料の9ページをご覧ください。現在平成31年4月から幕別高校と江陵高校が再編統合いたしまして、江陵高校の校舎を使用した道立高校が設置される予定であります。これまで町が要望してまいりました1学年4学級の高校の設置につきましては残念ながら1学年3学級の高校とされたところでございます。昨年の12月19日に開催をされました北海道教育委員会と両高校、町教育委員会で構成いたします4者連絡協議会におきまして、道教委から新たな高校の魅力のある教育課程の編成に向けた学年制と単位制の概要について説明を受けたところでございます。その説明を受け今回この資料を

作成したところでございます。上段が普通科3間口の学年制、下段が普通科3間口の単位制で学年制、単位制それぞれともに同じ4つのコースに分けられています。進学を目指す生徒、福祉関係に興味のある生徒、就職を目指す生徒、スポーツに興味のある生徒と4つの分野に別れております。いずれも学年制、単位制とも1年目は、基本的に基礎的な学習が中心となり、2年目以降それぞれの生徒の進路に合わせたバラエティにとんだ選択科目の設定となっております。2年生では、コース選択科目として上段の学年制、下段の単位制とともに2つの選択設定となり、基本的には大学を目指す生徒については進学に必要な科目を学ぶこととなります。また、3年生では、選択科目学年制では3つ単位制5つとなり基本的には進学の教育的科目の履修が中心となります。次に福祉課のコース選択科目になりますが、こちらについても2年生、3年生において必要な科目の教養、実務、教養的な科目を学ぶことが中心となります。3つ目のビジネス関係の修学を希望する生徒につきましても同様の内容となっております。次に最後の4つ目のスポーツのコースについては、選択科目として2・3年生においては体育に関する科目、教養的な科目を学ぶことが中心となります。4者の連絡会において協議した結果、学年制におきましても単位制とそん色のない内容となっており、多様な生徒の興味関心や進路に十分対応でき自由度のある教育課程の設定が可能と判断したところであります。次に、11ページをご覧ください。新設高校の募集の関係でございます。町におきましては新しい高校として位置付けていただくことで1月26日までの期間で高校の名称を募集しています。また、これに合わせて両高校においても3学期がスタートいたしましたので、学校においても卒業生や生徒保護者、学校教職員等に対して新しい学校名の募集を行っております。今後、学校名につきましては、町、両高校の3者で協議をさせていただきながら数点の学校名を選定して北海道教育委員会への要望を考えております。次に12ページをご覧ください。新設高校への町の支援についてですが、各自治体が高校に対しての支援策についてまとめたものでございます。現在の両校への支援状況につきましては、資料8ページにあります。各学校への485万円の補助金を支出しており、各学校の授業や実習等にスクールバスの支援も行っている状況にあります。本町におきましても新たな高校への支援について、今年度3月末までに町としての支援策を北海道教育委員会へ提案をしなければならないことから、教育委員会事務局におきまして各種支援策の検討を行っているところでございます。今後の予定についてですが、町の支援内容の決定が平成30年の3月までで学校名の変更要望、教育課程の編成、部活動の編成等については、先ほど町長の挨拶にもありましたが入学募集の関係で、今年6月までに内容の決定が必要となっております。その後教科書の採択等についても30年7月から教科書の準備が始まる流れとなっております。学校名の変更の決定と制服の決定については、道立高校でありますので北海道教育委員会内で選定された学校名が9月協議会の条例改正で変更となる事務手続きが行われます。これに合わせて制服が変更となる場合もこの時期までに決定が必要となります。引き続き教育課程の具体的な活動の検討については、両高校を含め町3者で検討し調整を図りながら北海道教育委員会へ要望してまいります。私からは以上でございます。

石野課長

13ページの資料3につきましてご説明いたします。スポーツを核にしたまちづくりであります。内容といたしましては、本年度まで個別に実施してまいりました。未来のオリンピック選手を育てる事業を主体といたしまして、町

で実施しております幕別町応援大使事業など組み合わせ事業をパッケージ化し、国の地方創生事業を活用しようとするものであります。地方創生事業のビジョンといたしまして、資料の左側になりますが、「目指す将来像」は、全ての町民がスポーツを楽しむ「住んで楽しい町」を創出することで、スポーツに関わる人と経済の好循環を実現するとしたものであります。次に事業背景としまして、記載にありますが現在5人の現役オリンピック選手がいる。町内に野球場や体育館の社会体育施設のほか、トランポリンやボルタリングの民間施設などスポーツをしやすい環境。総合型スポーツクラブによる様々な運動プログラムの提供。十勝の食糧自給率が1,266%であり、食と連携した取り組みが可能であるなどの事業背景があります。また、課題といたしましては、子どもや運動をしていない人に対してスポーツ活動をするきっかけやプログラムの創出。スポーツ合宿を受け入れるための環境整備と合宿誘致マネジメント。地域のニーズに応じた優れた指導者の育成。新しいスポーツ等、ニーズの多様化に対する社会体育施設の活用と維持管理。糖尿病など医療費負担が大きい疾病を予防するため、生活習慣病予防としての運動の活用。スポーツをキーワードとして楽しい魅力ある空間・機会の創出などを課題としております。その課題に対する基本的方向については、子どもの運動・スポーツの機会の充実。トップレベルのスポーツを体感する機会の創出。運動・スポーツを支える人材の育成。ライフステージに応じて誰もが健康で運動・スポーツを楽しむ機会の創出。運動・スポーツ施設の整備・充実。町民とともに考える検討会の開催を行っていくものであります。組織体制につきましては、行政だけで考えるのではなく町民とともに考えるため、役場の庁内検討チームと仮称ではありますが「スポーツを核にしたまちづくり検討会」の開催を想定するものであります。次に、資料右側の行程表になりますが、地方創生事業は3ヵ年で展開しますことから、平成30年度から平成32年度までの行程を記載してございます。項目にあります「子どもの運動スポーツ機会の充実」では、平成30年度に子どもを対象にスポーツに興味・関心を掴み、31年度には子どもが潜在的に持っている競技力を引き出し、32年度に子どもの競技力を高めるため指導力の向上を一体的に進めて行きます。これにつきましては、一体的に進めますが年度ごとの主なポイントとして目指すポイントを分けております。「トップレベルのスポーツを体感する機会の創出」では、平成30年度にアスリートの活用、合宿誘致に対する考え方の整理と環境整備、町の情報発信を行い、31年度に同じくアスリートの活用、合宿誘致プロモーションの環境整備、町の情報発信、32年度は31年度と基本的に同じでございます。項目の3点目の「運動スポーツを支える人材の育成」では、平成30年度に地域で必要な人材の育成に向けた検討を行い、31年度にインターンシップ等人材育成の実践研究、32年度にインターンシップ等人材育成の実践研究と引退後のアスリート雇用の検討を予定しています。項目4点目の「ライフステージに応じて誰もが健康で運動スポーツを楽しむ機会の創出」では、平成30年度に農畜産物の価値の再認識、どの世代でもスポーツ・運動を楽しむきっかけづくり、31年度には、インターンシップ等人材育成の実践研究、どの世代でもスポーツ・運動をしてみたいなるきっかけづくり、32年度に向けてはインターンシップ等人材育成と実践研究、運動を通じて健康意識を深めるきっかけづくりを予定しております。項目の五点目の「運動・スポーツ施設の整備、充実」では、30年度に社会体育施設の現状整理、31年度には指定管理者制度の導入による体育施設の魅力向上、32年度に向けては指定管理者制度の導入による体育施設の魅力向上にスポーツコミュニティ空間の創出を目指すとするものであります。項目の6

点目の「町民と考える検討会開催につきましては、平成 30 年度に行政・町民・民間との連携体制を確立、町民のスポーツ・運動の実態調査、31 年度には、スポーツを活かしたまちづくりの検討、32 年度には十勝を国内外のスポーツ重点エリアにするための検討を予定しております、3 年でのステップアップを目指すものでございます。事業内容は、次のページに記載しております。平成 30 年度につきましては、現在予算要求をしている内容となりますが、2 年目以降につきましては、まだ、3 ヶ年実施計画との調整が整っていないものがありますことから変更になる可能性があるものであります。平成 30 年度の事業計画ですが、未来のオリンピック選手を育む事業では新規事業といたしまして、「トップレベルのスポーツを体験する機会の創出」のためのオリンピック選手による学校訪問や実践指導、慶応義塾大学野球部の合宿誘致事業、障がい者等誰もが取り組めるスポーツの普及のためパラリンピック実践事業、継続事業といたしまして、北海道日本ハムファイターズによりますスポーツコミュニティ事業、地場農畜産物を活用したアスリート食と運動の教室及びバルシューレ教室を計画するものであります。なお、地方創生事業の活用ができますと、地方創生推進交付金により事業費の 1/2 の補助が見込めるものであります。私からの説明は以上でございます。

飯田町長

説明が終わりましたので主要懸案事項について意見交換をしていきたいと思えます。小中一貫等の推進についてですが、農村部では比較的に保護者には一般的な形を理解していただいていると感じていますが、市街地特に札内地区では浸透していないのではないかと気がかりであるところです。それぞれ学校の現場サイドでは一生懸命に取り組んでいますが、例えば農村部の話ですが公区長が勘違いしております、小中一貫が最終的に学校統合になってしまうのではと、そのような考え違いをしている質問もありました。もう少し一般の人も含め「どうようになるのか」、「どのようなメリットがあるか」など詳細な説明が必要と感じています。小中一貫を耳にしている方は多くいると思いますが、「どうなるのか」と言ったときは分かりづらいと思えます。今から「こうなりますよ」と言えないですし、はっきりした成果を説明できないことが難しく辛いことかと思えます。委員の皆さんはどうでしょうか。

小尾委員

私もそうでしたが先ほど町長が言われたように「小中一貫」を耳にしますと、昔の小中学校の 1 校をイメージしてしまいます。私もそのような思いから始まりました。現状での中一ギャップが小学校の教育課程と中学校での課程や環境が違うなかで、小学校の環境から中学校の環境に移ったときになじめるような体制づくりが小中一貫校ではないかと思えます。早い段階から中学校との連携や中学校の先生との交流を深めることによって、抵抗なく中学校の環境になじめるのではないかと思えます。統合はこれからの児童生徒数の減少により考えられることもあると思われませんが、当面の課題としては、小学校から中学校に進学したときに入学後の環境になじめるような体験を事前にする必要があると感じています。

飯田町長

学校統合については、町や教育委員会側から実施しますということはありません。これは保護者の方から今の学校での活動をするよりも、「もう少し大きい学校の中で少年団活動をやりたい」ですとか、「部活をやりたい」、「いろんな教育活動をやりたい」などの話があって初めて統合に向かっていきます。小中一貫については、学校統合とは別の話しでいかに学校生活になじめ

るかと言う観点です。小学校での生活は仲良く楽しく学校生活を送っています。それが中学校に入ると3年生は進学と言うものが頭に入ってきます。そこで点数が取れなく授業についていけない子どもの居場所がなくなり不登校になったり、学業以外のことに熱心になるなどが要因と思われます。

瀧本委員

私も小尾委員や町長が話されたように小中一貫は、児童生徒が一番望ましい環境を整えてあげることが最大の目的で、それを目指すものだと思います。そのなかの一つの手段として小中一貫であり、町長が話した内容が全てと思っています。今後進めるにあたって児童生徒の環境作りを今から準備していくことも大切ですし、先生方の気持ちの考え方も含め事務的な部分で大きく負担となるのも事実だと思います。また、保護者の方々の不安も増えていくと思います。これから先の学校の先生方の課題や4月から始まる課題の集約も必要ですし、地域の方々の意見を聞く窓口も必要になってくると思います。これから始まるにあたって、教育委員会の内部においても資料の東中エリアでの課題と要望にありましたように、教育委員会に小中一貫に関わる窓口を整理できる担当の方を専属に置き、そのなかで少しでも先生方の負担や地域の方の負担を減らす方法も必要と感じました。

飯田町長

平成31年度から全地区で実施ということで時間的な余裕はないです。30年度に実施するモデル校での実践で何が課題か、何が終わっていないのかなどを直ちに洗いだし反映させていくことが必要で、それと一方では住民理解という部分についても、もう少しこまめに実施する必要があると感じます。各学校においても特定の人ではなくて保護者を集めたPTAの集まりなどを利用させてもらい周知が必要と思います。

田村教育長

PTAの総会や会合を利用させていただき説明をしており、現在は全ての学校で小中一貫教育の説明が終わっている状況にあります。また、PTAにも学校便りや懇談で多くの方が集まったときには学校側から説明している状況です。

飯田町長

広がりはまだ見せていなく携わった方々は十分理解していると思いますが、一般の保護者の方には理解されていない部分があるのかと思います。

田村教育長

統廃合の話と小中一貫教育の話がありましたが、文部科学省では平成27年度に「小中学校の適正配置に関する手引き」を作成しています。統廃合と小規模校を存続させる場合の条件をどのようにすべきかなどの記載があります。その中でも小中一貫教育は、統廃合を進めるための手段ではなく小規模校を存続させるための手段として、小中一貫教育があると示されています。それは小規模の小学校と中学校が交流することによって、一定人数の子どもたちの集団が作られ、子どもたちを育てることができると言われております。小中一貫が統廃合に繋がることではないことをもう少し教育委員会でもPRが必要と感じています。

飯田町長

過去3年間に併置校を作ったケースが根釧地区であるかと思いますが、聞いてないですか。

田村教育長

聞いています。

飯田町長 あえて併置校にしている、小中一貫のもっと先を行く話しになる併置校にしました。

田村教育長 全国の学校が統廃合して、その後どういう学校になったかという統計は過去3年分データが残っています。

飯田町長 統廃合ではなく併置校にしたケースで、併置校だから小学校も中学校もありますので校長が兼任しています。富村牛もまさしく十勝管内唯一の併置校です。その学校では児童が先生の言うことは聞かないが、中学生のお兄さん、お姉さんの言うことは聞き、非常に下の子どもたちの面倒を見ていて良い教育効果が現れていると聞いています。委員の皆さんも私もそうですが、小中一貫教育に関して誤解の話しを聞いた場合には噛み砕いて説明する必要があると思っています。みんなで頑張りましょう。

小尾委員 先ほど説明にありましたが、平成29年度は体制づくりで30年にはモデル校を設置しての実践、そして31年からは5つのエリア全てで実践が始まります。そして7月には推進会議委員の視察研修も予定されています。教育委員会として、これから各学校と連携して事務を進めて行くこととなりますが、職員体制で専門の専任職員の配置が必要と思います。昨年の先進地視察での視察先の職員体制についてはどのようになっているのか確認させてください。

高橋課長 今年度視察を実施いたしました6市町村の状況をご説明させていただきます。北広島市については小中一貫課の課を設置して課長、主査、退職校長の指導主事の3名体制で行っています。北広島市は小学校が8校、中学校が6校であります。次に、当別町は小学校2校、中学校2校でありまして、管理課の中に小中一貫係を置いております。担当する職員については主幹職1名、係長職1名の2名体制となっております。三笠市についても小学校・中学校ともに各2校の状況で、専任の配置はなく学校教育係内で課長1名、係長1名、係の3名体制で行っています。白糠町は管理課内に指導室長を1名配置し小中一貫の専任とした体制で行っています。また、沼田町については、小学校中学校ともに各1校でアドバイザーを小中一貫の専任職員として1名配置している状況にあります。

飯田町長 北広島市は小学校8校、中学校6校で全部ですか。

高橋課長 はい。

小尾委員 教育委員会には2名の学校教育推進員がおり、各学校の教育課程に関して事務的な部分などをみていただいていると思いますが、職員体制も含め現在の体制で進めて行くこととなるのでしょうか。

田村教育長 教育委員会では、専任の職員を置いていただきたいという思いがあります。先ほど滝本委員からのお話もありましたが、学校側から直接専任の職員が窓口となってやり取りできる体制の要望があります。学校の推進会議やエリア別会議でもそのような要望がありまして、現在、学校教育推進員が2名おりますが、学校経営ですとか様々な業務を担っていただいております。その一つとして小中一貫の教育課程の組み方などについて相談を受けていま

す。また、職員では1名が小中一貫の教育の担当として、兼務で進めている状況にあります。

國安委員

10月の講演会で京都産業大学の教授が話しておりましたが、「小学6年生が中学校へ20回通うようになれば必ず成果が上がる」と話していました。各学校で最低20回の交流を目標とするとした場合、月に1回、2回か行事の中に組み込まれます。制度が軌道に乗り円滑に進めるためにも専門職員を配置することで、先生方の負担も軽減され取り組みやすくなると思います。そのような体制づくりをぜひお願いしたいと思います。

飯田町長

実際、小学校と中学校を行き来することを考えますと教育課程をどのように組んでいくか考える必要があります。今、教育課程を考える時期であり、各学校はそこから調整しないと4月以降に実施できないと思います。学校計画や教育課程の編成は、2月ぐらいから始まります。モデル校の幕小中学校に20回交流を組めるように校長同士協議が最初だと思います。その調整が済まない職員が行うことは難しいと思います。学校教育推進委員をたとえば増員することはあるのかなと思います。

田村教育長

学校間の交流の話だけで言えばそうなのかもしれませんが、事務的な部分などもあります。今、全部一人の職員が担っており今後モデル校2校のエリア、更に3つのエリアの実施に向け準備を進めていくこととなりますので、軌道に乗るまで専任の職員で対応が必要と考えています。

飯田町長

軌道に乗るまで必要なのでしょうか。その職員がどのようなこと行い携わってくのか。

田村教育長

今の担当者が行っている事務の具体的な内容はどのようになっていますか。

高橋課長

学校教育課内の学校教育係で推進会議の事務を行っていますが、小中一貫教育の情報収集、学校との情報交換それと予算や一貫に向けた取組内容などを行っています。その中で推進員の先生方の協力をいただきながら小中一貫のカリキュラムや学校への資料提供と作成を行っています。今後モデル校の2校がスタートいたしますが、残る3校も来年度学校で教育課程の編成や目指す姿を考えていくこととなりますので、そのような業務が多くなると考えています。

田村教育長

推進会議やエリア別会議の仕切りや資料、議案作りも担当していますか。

高橋課長

はい、教育委員会から職員が出向き、統一した考えの中で各エリアの小中一貫を進めていく必要があります。

飯田町長

やらなければならないことを行っていくなかで、人員の配置が必要であれば、どのような職種の職員を必要としているのかなど早急に詰めていく必要があります。

田村教育長

先ほどの説明のあった先進地では、どのような職員がどのようなことを担当し、本町とのシステムなどの比較をしたなかで詰る必要があります。

飯田町長

課題が残りましたが、次に高校の再編統合についてであります。高校の

再編統合は、子どもの数が減ってきている中、5年先、6年先を見ても町内で12%程度減少します。十勝管内でも中学校での卒業生が10%程度減少します。十勝管内での10%は350人程度で9クラス分が減少します。今後は子どもたちにとって、おもしろいと思える魅力のある学校に、そして通うことがおもしろいと思う高校にしていくため、皆さんの知恵をお借りしたいと思っております。

田村教育長

昨日、幕別高校の校長と懇談しましたが、この教育課程から更に一步進んだものを検討していただけることで今月中にある程度のものが示され、そして協議し2月中にはある程度の形を作りたいと幕別高校の校長は話していました。新しい教育課程が示された時点で、町長を含めてご相談したいと思えます。

飯田町長

あと他に何かご意見がありますでしょうか。

滝本委員

高校再編の関係も基本は子どもたちであると思います。そのなかで子どもたちにとって魅力ある学校が最大の目標であると思います。子どもたちがどのような学校に行きたいのか、保護者負担の軽減などの支援や環境づくりなども大切と考えます。支援では一般的に交通費や部活動における用具、資料にある各町村が実施している支援も一つと思いますが、町として大事な部分も拾いながら独自の対策も必要で、そのような部分がないと町としての魅力にも欠けると思えます。給食費の無料、駅から学校までの交通支援、道路整備も含めた環境づくりなど安心安全の確保も大切ではないかと思えます。また、今の現在地にある江陵高校が将来的にも札内駅付近の近くなど立地条件の良い場所への移転を考慮する必要もあると思います。今はスタートすることが重要となりますが、先々の具体的な部分を考慮した取り組みも大事ではないか考えます。

國安委員

大変なこととは思いますがとても有名な尾木直樹先生のような方が、アドバイザーとして名前を連なるようなそのような方法もあるのかと思えます。誰もが納得できる方が監修・監督してくださるような触れ込みができればいいと思ひ語らせていただきました。

飯田町長

まったく不可能ではないと思えますが、道立高校ということが一つ問題になります。教育課程で尾木直樹さんがアドバイスすることはなかなか難しいです。例えば、外部講師として来てもらい授業をしてもらうなどの関わりは可能です。そのような魅力は、オリンピック選手の活用もありますし著名人の活用も考えられます。

國安委員

スポーツというよりは、外枠で信頼できる方がいいのではないかと思います。

飯田町長

一つヒントをいただきました。他にどうでしょうか。

東委員

素直に資料を読んで感じたことですが、中学校で高校の再編統合について色々な意見が書いてある資料を拝見させていただきました。私自身もそうだったなと振り返ることがあったのは、私自身が中学生のときに高校を選んだ基準としては、部活動が大半を占めていたことを思い出しました。今回は、

新設の高校ですから文科系の部活動やスポーツ系の部活動がどのような形で発展していくのか。今まで続いた高校とは違いビジョンがはっきりしないこともあるかもしれませんが、部活動を売りにすると「指導者が大事になってくる」と意見もあります。「この先生に指導していただけるのでこの学校を選びたい」そのような考え持つ生徒の割合も多いと思います。いい指導者がいる状態で高校がスタートしていけたらいいという希望を述べさせていただきました。また、高校がスタートして数年が経過してやっと高校の雰囲気を作られます。私自身が大勢の人と群れることがあまり得意ではなく、グループに入るのが苦手でした。一人でいることが好きな生徒さんにもいい環境で過ごせる雰囲気の高い高校になっていただければという気持ちも新しい高校に期待していることでもあります。

飯田町長

二つ目の話しは非常に難しいです。一つ目の部活は教育課程上の配慮も可能と思います。スタート時から難しいかもしれませんが地域でコミュニティースクールをすることによって、地域が支え地域が人事に要望をしていく体制づくりも必要となっていきます。他には何かないでしょうか。

小尾委員

今、新しい高校名を募集しており状況については聞いていませんが、今回の新しい高校を新設するなかで主役は生徒であります。そのなかで保護者や地域の方々から意見をいただいておりますが、この新しい高校ができそこに入学する生徒たちの気持ちや意見がどれだけ汲み取られているのか。今の中学1・2年生の生徒を対象にどのような高校に入りたいのか、どのような高校を応募したいのか、どのような高校にしたいかなどの意見を汲み取った新しい高校となれば、希望者も増えることが考えられ必要と感じます。

飯田町長

アンケート調査は27年に実施しています。状況については把握していないわけではないですが、子供たちの気持ちは社会経済情勢によって変わっていきますので常時把握することは必要と考えます。

田村教育長

中学校の進路指導の先生、校長先生と教育委員会職員が懇談して、子どもたち、保護者はどのようなものを求めているのかなど全中学校を訪問して聞いています。

小尾委員

校名の募集はどのような状況ですか。

高橋課長

現時点で申し上げますと、校名の募集件数は55件です。

飯田町長

これから学校関係からも提出されてきますか。

田村教育長

今日、明日くらいから高校それぞれの保護者やOBに募集する予定と聞いていますので、学校関係はその後提出されることとなります。町の募集も26日までですので今後増えていくと思われれます。

國安委員

制服はどのように決まるのでしょうか。

高橋課長

制服につきましては、基本的に幕別高校で検討し江陵高校、町の意見を聞いていただけるような形で、そのなかで協議をして最終的には道教委での決定となります。

飯田町長 次にスポーツを核にしたまちづくりについてですが、「スポーツを核にしたまちづくり」ではぼかした表現で「未来のオリンピック選手を育むまちづくり」のほうが良いと思いますが、表題が2つありたとえば「未来のオリンピック選手を育むまちづくり～スポーツを核にしたまちづくり～」の表記のほうが良いのではないか。オリンピック選手がいてオリンピックの文字がなくなることはインパクトがないと思います。そのことについてはどう考えていますか。

石野課長 道を通じて事前相談をしていますので、そのことについて再度詰めていきます。

飯田町長 内容が変わるものでなく内容を変えないで、事業名をどのようにするか統一していくことが必要と考えます。スポーツの町はどこでもありそうで、オリンピックアスリートがいることを前面に出していいと思います。

田村教育長 名称の「未来のオリンピック選手を育むまちづくり」ですが、交付金の関係で変更となったのでしょうか。

石野課長 申請の関係から活用可能となる方向で調整しています。

田村教育長 それは政策推進課との調整ですか。

石野課長 実際の道とのやり取りの窓口は政策推進課で行っていただいています。

山端課長 名称につきましては、まだ確定しておりません。これから申請の手続きを取りますので、あくまでも名称だけで中身の取組内容が重要となりますので、内容の協議はいたしますが、名称については意見を聞きまして検討したいと思います。

飯田町長 これにつきまして何かありますでしょうか。予算の説明もありますが、予算要求を提出する際に説明があったことと思います。予算の中で特に重要な部分についてお話しをお願いします。

小尾委員 スポーツを核にしたまちづくり中で、慶応大学の野球部が合宿を希望され打診を受けているところですが、スポーツ合宿費用負担の補助金を前向きに検討していただきたいと思います。

飯田町長 これについては、非常にありがたい話しですので大いに進めるべしと思っています。なんとか予算を確保して、新たな目を生むくらい様々な効果に期待できる可能性があると思います。

滝本委員 スポーツを核にした関係ですが、来ていただく環境づくりも予算を含めて大切だと思います。例えば、札内川の河川敷の整備や野球場であれば野球の施設が必要ですし、専門の精通したチームが来町し合宿を行うには環境づくりは大事で怪我をするような場所では来てくれませんので整備の充実が必要と考えます。宿泊は、集団の大人が対応可能な施設がないと来ていただけない環境にないと思います。そのようなことを含め今現状にある駒島の施設で

は、当初の予定ではサッカーな施設として、芝生を蒔くなど色々と考えられましたが現実には整備ができていなく、新たに考えなければならないなど当然今後予算が必要となると思います。また、忠類ではスキー場ロッジの2階において吹奏楽の合宿が行われていると聞いています。忠類総合支所の裏側の芝生を上手に活用すれば、サッカー、ラグビーが可能で横にあるテニス関連の施設を活用なども考えられます。そのようななかで引退したアスリートの雇用と地域を含んだスポーツの選手を育む町、そしてスポーツを核にしたまちづくりがよい方向に進んでいければいいと感じました。

飯田町長

スポーツ施設の指定管理に動き出しているところでもありますし、野球場グラウンドコート整備やバッティングゲージの整備を含めて考えています。また、札内スポーツセンターにあるテニスコートの改修を予定しています。町テニス協会に誰かを招待してスポーツ教室を実施したい旨の話もありますことから、新たな動きも出てくることと思っています。

飯田町長

以上を持ちまして第2回幕別町総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。